

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会 摩周地域部会（第2回）
議事概要

1. 日 時：平成28年10月26日（水）15：00～17：00
2. 場 所：釧路圏摩周観光文化センター
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

○北海道環境生活部環境局生物多様性保全課 小林 自然公園担当課長 挨拶

■議題

（1）阿寒国立公園満喫プロジェクト ステッププログラム2020（素案）について

○環境省から資料1、2、3、参考資料に基づき説明。

○意見等の概要

【国土交通省北海道開発局釧路開発建設部】

4頁で利用者数の減少、ピークの半分位になったとあるが、この原因は分析されているか。原因の分析は課題にリンクしていくはずなので、原因を分析しない限り課題は見えてこないのではないか。それを解決すればお客様が増えると思う。

それと6頁の目標の具体的な人数をどう示すかについて、観光客が増えるのは良いが、客単価を増やすのも地元にとっては良いことだと思うので、その点を含めた目標設定をどうするかを議論すべき。

【環境省】

川湯地域における観光客の減少傾向について、弟子屈町、摩周湖観光協会で分析したことはあるか。

【弟子屈町】

特に分析というところまでは行っていないが、旅行形態が変わってきたのが大きいかと思う。特にバブルの崩壊を機に大きく変わった。弟子屈町の場合、平成3年に73万人の宿泊客があった。ちょうどバブルの終わり頃だった。それが現在、1/3以下になってしまったということがある。また、国内の状況を見ると、一番大きいのは若い方が旅行離れというか、旅行よりも他の趣味に流れてしまっているという状況が今までの弟子屈町の独自の調査でわかっている。

【環境省】

私もかつて川湯にいたことがあるが、やはり旅行形態が変わってきたということが大きいと感じている。場所的には道東の観光地の中心という良い場所にあるのだが、それでも減少したのは利用者の旅行形態の変化が大きな原因だったと感じる。

また、消費単価の向上はそのとおりで、利用者数の増加という目標はあるが、それによってもたらされる利益が最終的には重要であると思う。

【摩周湖観光協会】

公園利用者数のピークは平成11年にあると思う。我々観光協会、宿泊業界の中でも旅行形態の変化という話がある。2000年に航空法が改正され、それ以来、地方空港が大変厳しい状況となる一方、大きな空港はどんどんパイプが太くなった。これは北海道に限らないと思うが、地方空港の乗降客数がかなり減っていることも国立公園の利用者数に反映されているのではないかと見ている。

【環境省】

ビューポイントの取組については、必ず主体となるべき者が決まらなくてはならないし、単に施設整備をするだけでなく、その管理運営を行う者がいなければならない。またハードだけではなく、必ずアクティビティとセットで、その場所をどのように活用していきたいかを考える必要がある。コンセプトや取組方針を踏まえ、幅広く意見を伺いたい。

【美幌町】

8頁の図面を見ると、ビューポイントというよりエリア的な設定がされている。前回の協議会で美幌峠をビューポイントに入れていただきたいと意見を出したが、この図は屈斜路湖全体の中に峠も入っていると整理されたと感じる。確かに美幌峠から見る景色は屈斜路湖だが、当町としては今後、美幌峠から見る景色を売っていきたいとの想いもあり、例えば、美幌峠・屈斜路湖とか、屈斜路湖・美幌峠とか、頭出しをしていただけないか。摩周湖であれば摩周展望台には摩周湖の名前が出るが、美幌峠は屈斜路湖展望台ではなく、美幌峠となっており、もう少しに皆さんにそこから見る景色を広く、知ってもらえないかと思っている。

次にアクセスルートについて、今回、主要な3つの空港を拠点にそこから国立公園に至るルートとなっているが、位置関係が判りづらい。例えば、図面を別に付けるなどし、図面上に主要な空港があって、こういったルートで国立公園に入っていくというものがあると判りやすいかと思う。

【環境省】

美幌峠の表示について、13頁のインバウンド対応の最後の項目には、美幌峠に限らず、津別など特に屈斜路カルデラ外輪山に位置しているところは、阿寒国立公園のエントランスとしても重要と考えており、その整備や多言語化に対応した解説看板、標識の設置を記載している。そのような標識等の整備の中で、例えば「美幌峠・阿寒摩周国立公園」のような表示の仕方もできると思うので、そこはまた相談させてもらいたい。

アクセスルートの位置関係については、現在は適当な図面がなかったので添付していないが、今後適当な図面を作成・添付する予定である。

【清里町】

この地域は自然環境に本当に恵まれていることが魅力の一つだと思っている。その中で

当町は、観光協会を中心とした自転車、それからウォーキングに取り組んでおり、また、中標津から弟子屈までの間に延長65kmの北根室のウォーキングトレイルもある。例えば、このエリアが端から端まで歩いて行ける、自転車でも行けるというような、また国道、農道や私有地も使えて、本当に自然を満喫できるようなプログラムができると良い。今、自転車、ランニングやウォーキングは非常に海外でも注目を浴びているので、PRして活用していく価値はあるのではないかと思う。

【環境省】

自転車については川湯温泉の方でも、レンタルサイクルなどの取組を進めていただいている。また、阿寒地域の部会でもロングトレイルやサイクリングなどの提案が出ていたので、今後、考えるべき利用のメニューになるだろう。

一方、自転車であれば現在の車道と一緒に使えるが、ウォーキングとなると歩道の確保が必要となるので、ルート選定については関係者の中で知恵を出しながら設定していくことが重要ではないか。

【国土交通省北海道開発局釧路開発建設部】

国道の管理をしている。安全安心で使っていただきたいのは当然で、できるものならいろいろな施策をしたいところ。しかしなかなか、自転車のためとってお金を工面できないところもあるので、そこは知恵をしばっていききたい。またハードばかりではなくソフトで支援するのがよいと思っている。今の時代、新たに自転車道を造る時代ではないので、既存のストックを活かしていく知恵をしばりたい。

【小清水町】

本町は、屈斜路カルデラ外輪山という部分で関連する。ハイランド小清水の展望施設に観光客を何とか呼びたいと考えているが、なかなか売れないという現状。そういった中、来年以降になると思うが、民間と連携協定等を結び、具体的に仕掛けていこうと考えている。これらを含め、このプロジェクトと連携を図りながら本町としては取り組んでいきたい。今後ともよろしく願いたい。

【大空町】

大空町も阿寒摩周国立公園のエリアとして絡んでいるのは、藻琴山という部分。その部分でステップアッププログラムに埋め込むようなことはないが、全体の中で要望、検討したいということがある。資料の5頁に阿寒摩周国立公園の課題として、受入体制の充実の中に接客とサービスの向上があり、具体的に何かしていけるのかということ。実はエリアには入っていないが、大空町に芝桜公園があり9万人が一ヶ月の間に来る。そのうち、1万人位がインバウンド。一昨年、公園内で通訳の方が案内できるかできないかで、公園内の施設を使ってもらう、利用してもらうことに影響がでていたということがあった。具体的には遊覧車に乗せるという、ただこれだけのことだが、案内がいる、いないで、乗る、乗らないがはっきり分かれた。通訳の方が都合によりたまたま案内できなくなってしまい、見えるところに遊覧車の乗り場があるのに、外国人は乗らなくなってしまった。通訳が案

内するという事は、現場ではとても重要なことであり、この国立公園内にお客様を誘導するという事は看板も必要だが、各観光地に直接案内したり、ご紹介したり、パンフレットをお渡しするような、そういったことができれば大分違って来る。インターネットやスマホで探して自分達でどんどん動く人たちが沢山いるが、直接、その場で、例えば大空町の芝桜公園にいる方に次は阿寒摩周国立公園のこういうところが良いですよとパンフレットを渡しながらかご紹介すると動きが発生すると感じている。そういうものをステップアッププログラムの中に事業としてできないか。人材の確保とか養成も、ガイドよりも通訳の方の確保をすることが難しいかもしれないし、また、どこの観光地にそれを置くべきなのか、必要である地域、そうでない地域も沢山あると思うので、それらを考えた中で、時間がかかるかもしれませんが、プログラムの中に途中で盛り込むかたちでできたら良い。

【環境省】

プロモーションに関係する部分もあると思うが、皆様の協力を得て進めていければと思う。またプロモーション、あるいはそれぞれの取組のところで書けることがあれば書いていきたい。

【国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局】

先程、自転車のお話が出たが、どういうターゲットを狙っていくのか。本気の自転車の人たちがあれば、このエリアは狭すぎる。1日100km位走るし、アップダウンが足りない。つまり、どういった人たちにこの公園のコンテンツを提供していくのかという議論が必要。また、今後の話になってくると思うが、本気で国立公園を楽しみたいと思っている特に欧米系の人たちに対しては、この土地の歴史文化も語れる質の高いガイド、しかも英語は必須、そういった方々を育成していかないといけない。一朝一夕にはいかないで、私どもも議論することはあるが、例えば、現地のガイドに英語を覚えてもらうのがよいのか、ここに住んでいる外国人にガイドしてもらうが良いのか、どうやってガイドを育てていけば良いのかというのが、今後、重要なところかと思う。

もう一つ、コンテンツづくりを行っていく際に外国人の目線で、外国人の意見を聞いたうえで、このコンテンツが通用するか、通用しないのかというのをやっていった方がよいと考えている。

【環境省】

先日、近畿日本ツーリストのアドバイザーの方にこちらの現場を見ていただいたが、その時に自転車は二次交通の不便さを補うという観点で活用したらよいのではと助言をいただいた。例えば、電車からバスに乗り換える時間が長いとか、バスそのものがない時にレンタサイクルという形で貸し出したら良いのでは、まずはそういう形で行ってみれば良いのではないかと助言であった。また、他の方からも津別峠の坂道は自転車乗りの方たちにとっては聖地のようになっているなど伺っている。

アドバイザーからは、外国人の目線が重要というようなお話しも伺った。我々が見せたいものと相手が何をみたいかはかなり違いがある可能性があるということや、思いもした

かったことが外国人に受けているということであった。例えば、いろいろな学校に英語教師として来られている方とか、大学に留学生として来られている方とか、いろいろな国の方がいるので、そういう方々に見てもらえば良いのではという話も伺った。

【弟子屈町】

2020年までの直轄事業の計画はいつ出て来るのか。

【環境省】

2020年までのという形では出ない。毎年単年度の予算要求になるので、その年のメニューについては前年度の後半になって固まる訳で、2020年までにどのような予算が確保できるかについては何とも言えない。ただプロジェクトは継続し、官邸の肝いりということもあるので、それなりのものが付いてくると思うが、具体的に何ができるかということについては、その年、その年というかたちになる。

資料3の3頁目に、環境省の施策の予算を記載している。国立公園満喫プロジェクト推進事業については、28年度の補正予算で100億円がついており、また、平成29年度については、あくまでも概算要求の段階であるが、8公園について15億円を要求している。

【弟子屈町】

ステップアッププログラム2020では、交付金で行う事業を挙げなければならないのか。環境省直轄事業ではできないので、各市町ができる事業を挙げてこいというのが理解できない。

【環境省】

ステップアッププログラムには、必ずしも予算の裏付けがついていなくても、このような取組が必要だということについて記載していくことになる。各町においては、予算の確保ということを念頭においていただきたいが、それだけではなく、この機会に検討していきたい取組を是非、挙げていただければと思う。

【弟子屈町】

もう一つ、アクセスルートの関係だが、ここでは道東3空港というのが当たり前の話だが、富裕層を狙うということになれば、どうしても国際線のある新千歳空港を入れない訳にはいかない。実際、当町にもタクシーでまっすぐ入ってくる富裕層は結構いる。新千歳空港というのも、3空港の他に考えるべきではないか。

【環境省】

新千歳空港に来た時点で、既に旅行の計画は立てているので、それ以前のプロモーション、海外の国々に対するプロモーションが重要と考えている。もちろん、千歳でも何か情報提供できれば、それにこしたことはないし、レンタカー会社や交通機関に対しても働きかけをしていく必要がある。

【弟子屈町】

アクセスルートの中に新千歳空港も入っても良いと考える。新千歳空港から入ってくる

方が数的にかなりいるもので、そういう方は富裕層が多く、客単価が高い、地域でお金を使っただけ、地域の活性化につながるということを考慮した時、やはり、国際線を持たない3空港だけじゃなくて、国際線が集中している新千歳空港を入れるべきではないか。

【環境省】

具体的なアクセスルートに含めるかどうかは検討する必要があるが、何らかのかたちで含めることができるよう工夫したい。

【中標津町】

この阿寒、摩周の地域の魅力が上がることによって、周辺自治体の魅力も上がっていくと感じているので、そのために地域の魅力向上のために何ができるのか、役割は何なのかということを考えながら、一緒に参画して、一緒に育っていきたいと考えている。

繰り返しになるが、清里町から話しのあったランチウェイの取組について、最近、ランチウェイというのが注目を浴びており、中標津町の交通センターから、この阿寒摩周国立公園内に西別岳を通り、川湯温泉駅近く的美留和駅というところまでを結んでいる。総距離は71.4kmで、近年、外国人が歩くことを目的に入り込んでいる方が非常に目立っている。まだ数的には多くはないが、目立つ位歩く人もいて、注目度もある。先程、清里町から言われるまで、あまり意識していなかったが、まさに国立公園内を通っているという視点で見れば、西別岳から美留和駅までロングトレイルと言えるものが出来上がっている。是非、できれば西別岳からオンネトモまでを結ぶような歩く道を取り組んでみたら、おもしろいのではないかと考えている。

また、美留和駅以降を、どういうルートを通るかというのは問題も課題もあると思うが、導いていって将来的には一本に結ぶということになれば、まさにロングトレイルという部分では、欧米の方も非常に注目しているところであると感じる。できればそういったことも、この満喫プロジェクトの中で取りくんでいただければ。

【環境省】

ロングトレイルの話は、いろいろなところに出ていているが、その管理運営をどのようにしていくかなどの課題も多い。このように皆さん集まっていた中で、知恵を出し合い考えていくことができればと思う。

最近では、11市町の皆さんが一緒になって国立公園の名称変更の要望を出されるなど、まとまりができていると思うので、それを活かしたかたちで是非、このプロジェクトを進めてもらえればと思っている。

【北海道観光振興機構】

先程から客単価を上げたいとか、富裕層を狙いたい、金額を上げたいという話しががあり、当然、消費額を上げるということは、それなりの価値を提供しなければならず、まさにプロジェクトの名称のとおり、どうやって満喫をさせるのかということと一緒に考えていかなければならない。今の北海道の満足度指数、それから再来訪指数は、

残念ながら47都道府県の中位数以下。満足度指数にいたっては25位、上から数えていくと半分に入らないという状況。この両方の指数、縦軸と横軸にした時に、ベストファイブは、千葉、東京、大阪、京都、沖縄。大阪が5位、京都が4位、東京が3位くらい。ご承知のとおり千葉と大阪の再来訪する理由は、大きなテーマパークということなので、エリア全体のポテンシャルではない。従って、京都とか、沖縄というのがお手本にしていかなければならないところではないか。この京都とか、沖縄の観光スタイルが一つのところを拠点にしながら、あまり広域ではなく狭域というか、小さい広域観光、拠点周遊のような観光スタイルになっているところだろう。従って、今回は国立公園という一つのエリアとして線が引けるということは非常に判りやすい取組になってくる。

今の北海道の再来訪指数が低い点に関して、再来訪しない三つの理由というのは、よく言われることが、疲れる、飽きる、浪費する、の三つ。もしかしたら、今の北海道の旅スタイル、三つとも当てはまっているのではないか。飽きさせないようにする、疲れさせないようにする、それから消費と浪費は違うから、価値ある消費であれば浪費にならない。このことにいくら使ったということを実際に価値として見いだせるようなものをつくり出していくことが新しいコンテンツの開発であり、満足度を高めるガイドの育成だろうと見ている。機構もそういった面から協力、バックアップをしていきたい。

【摩周湖観光協会】

私はプロのガイドとしてもツアーをしているが、どうしてもデカンショ観光ということで、夏は忙しい一方、これからの季節が寂しい季節になって売り上げが上がらなくなる。お客さんも来ていないということだが、来てくれれば満足度は120%位になる。今のインバウンドの関係もそうだが、みんな、一応英語しゃべりたい、しゃべらなければいけないとあるが、これは多分、外人のお客さんと数をこなしていくと慣れてきて、日本人ばかりではないので、かなりうまくいくのではないかと希望を持っている。ただ、やはり研修など基礎的なものを学べる機会があれば良いと思う。

弟子屈町内の宿泊地としては、川湯温泉になると思うが、前回もお話したように、周辺の自然と一体的なかたち、あるいは連続性を持つかたちで進めていきたいと我々民間事業者も考えているところ。今回の満喫プロジェクトが町内、あるいは事業者にある程度、内容が判ってきて、ちょっとムーブメントが起こっている。

これは、私自身も以前から心の中にあっただけのものだが、川湯に元スキー場があり、道内でも古い時期からリフトも整備されていた。今から相当前にスキー場としては廃止されて、その場所は国にお返ししているという位置づけになっている場所で、私も3日前に現地を見てきたが、川湯、弟子屈、摩周エリアの中で、そこを活用したいとの声が具体的にあがっている。散策路として整備をしたいとの声であったり、ツアー会社からそこをステージとして活用したいとの声であったり、お客様にいろいろな体験プログラムを実施したいということであったり、特にカヌーガイドは冬場、夏のようにできないところもあるので、そういった方から要望の声も寄せられている。

一度お返ししている場所なので、難しいかと思うが、川湯森林事務所から必要な時に内容を申請していただければ使うことは可能とお返事いただいております、何らかの形で、このプログラムの中に含めて検討してもらえればありがたい。

【環境省】

スキー場の跡地の活用は伺っている。あの周辺にはアカエゾマツの森もあり、散策路コースもあるので、スキー場も巻き込んで利用する方法もあるのでないかと思う。今後、話しをして検討していければと思う。

【きよさと観光協会】

摩周湖のインバウンド対応の整備の中に裏摩周展望台の再整備が入っていて、大変ありがたい。ビューポイントの枠の中に裏摩周展望台が入っていて大変うれしく、なんとか良いように整備をお願いできたらと思う。

裏摩周展望台の少し下に神の子池というものがあり、ここが入る、入らないは別として、神の子池と裏摩周展望台の間、昔は林道があり散策路として途中まで行くことができた。それほど難しくなく、草でも刈ればマウンテンバイクとか、そういうアクティビティに良いコースになる。夏はマウンテンバイクで、冬はスノーシューでというようにならないかと思う。勝手に開発する訳ではないが、そのへんの方法も考えられないか。

【環境省】

森林管理署等々、関係者と話をしながら可能性について考えたい。

【めまんべつ観光協会】

アクセスルート絡みにもなるかと思うが、今、全国で7つの周遊ルートが選定されている最中であり、北海道では唯一、道東地域がそのルートに選定されている。それを考えると先程のインバウンドの入り口として、道東3空港のみならず新千歳空港も必ず入れるべきだと思う。入り口は新千歳空港が一番多いのは当たり前で、出口はに関してどこなるかは、次の観光地どこを目指していくかということがあるので、インバウンドとして来る人たちの観光目的によって変わってくるが、入れておく必要がある。

それと各ビューポイントの位置図で5つ地域が表示されているが、移動する際に所用時間どの位かかるとか、ビューポイントのすばらしさをどうアピールするかということも検討する必要がある。前に参加した研修会では、例えば、1時間、若しくは半日、1日、一週間など、その所要時間でルートを選定するということを講師の方が言っていたので、ビューポイントを結ぶ中で、どういうことがどういう時間でできるのかということも検討事項に入れておくべきではないかと考えている。

【環境省】

新千歳空港の話は先程からずいぶん出ているのが、プロモーションが重要であると考えている。効果的な方法を考えていきたい。

ビューポイントの連携についても、どのような方法がよいのかを含めて検討していければと思う。

【なかしべつ観光協会】

先程、中標津町からも話が出ていたアクセスルートについて、先程から道東3空港の話の中で多言語に対応した看板の設置という話があるが、実際、中標津空港にも若干だが多言語に対応した看板がある。だがそれは歓迎の表記が中心であって、他の阿寒湖、摩周湖の紹介はできていない。満喫プロジェクトの中でそのような整備ができ、ビューポイントを紹介していれば海外の方だけじゃなくて、国内の方も空港に降りて、既に行程は決まっていると思うが、どういうルートで行けば行きやすいのかということがわかりやすいと思うので、多言語化というのは重要。中標津町もなかなか多言語の表示が出来ていないのが現状なので、町内だけでなく、根室管内では中標津町が1町だけ入っているの、根室管内にも紹介し周遊という形でいけば、根室、釧路管内、オホーツク管内も視野に入れて観光客の方、海外の方を迎えられると考えている。

【環境省】

ステップアッププログラムがまとまった際には、リーフレットのようなものも含め作っていきたいと考えている。

【阿寒国立公園川湯地域運営協会】

ビューポイントの川湯温泉、硫黄山の中で街並み等の景観、改善において3点の要望がある。

①川湯温泉街の廃業してしまったホテルを中心に廃屋を整理していきたいと考えており、国内のお客様、そして海外のお客様が安心、安全な観光地に来ていただくようなものをつくっていききたい。協力をお願いしたい。

②2点目は、川湯温泉街の外にはきれいな大自然があるが、温泉街に入ると全く緑がなく、廃屋を整理した後に温泉街の中に森を持ってきて、森の中にある温泉街というかたちにしていきたいと考えている。

③最後に温泉街に流れる温泉川を整備していきたいと考えており、具体的には川の淵にウッドデッキを整備し、お客様に歩いていただくようにできればと考えている。

【環境省】

廃屋の整理については、一番の課題と考えている。しかしながらいろいろと難しい問題も抱えており、どのようなメニューが使えるのかなど知恵を搾っていかないといけないと思っている。

温泉街の緑についても、おっしゃるとおりと思う。園地の一部は民間の園地になっており、そのような場所がもっと広がると良いと思う。

温泉川の整備も前から伺っているところ。可能性を含めて、誰が主体となって進めていくかということも検討していければと思う。

【自然公園財団川湯支部】

摩周湖に初めて来た方は「ここは違う、何かある」と独特の印象を受けると異口同音に言う。それだけ摩周湖というのは神秘と呼ばれるほど、特異的というか、違うものがある

と思っている。そういう意味では、今は摩周湖の保全というものを前面に出すような仕組みが出来ていないのではと感じる。いろいろな経緯があり、今の駐車場、展望台が尾根のすぐ横にあるが、保全面で考えると、尾根の真横というのはどうなのかと思う。美幌峠の展望台のように、駐車場があって、レストハウスがあって、少し歩くことでたどり着く展望台があるというプロセスが大事ではないかと思っている。車を降りたらすぐ見えますというのではなく、神社に例えるなら、鳥居があって階段があって、それで拝殿にたどり着く、そこに至るプロセスがすごく大事と考えており、まさに摩周湖は本殿ではないかと思っている。このような保護の思想を含めた価値を高める見せ方をすることで、今までと違うより良い意味での感じ方をしてもらえるのではないかと思う。そういう視点で考えると、現状では展望台としての役割は機能しているが、くつろぐスペースがない。また、素案で民間スペースのカフェが提案されているように、そういうものとインフォメーションセンターを一体的に運営することでソフト事業も展開し、やすらげる神社のような、ここは空間が違うぞと感じてもらえるような見せ方をすることが非常に大事だと思っている。

登山道についても、片道7.2kmの摩周岳登山道があるが、第3展望台に行く方向も検討する価値がある。登山道にするか、散策路にするか、そのへんも含めて検討してもらえればと思う。それから第3展望台に至る尾根伝いの車道も、環境保全の立場から言うと、現在の道路を否定している訳ではないが、観光することによって摩周湖にプレッシャーを与えないような仕組み、利用のあり方を考えるべきではないだろうか。

硫黄山については、硫黄採掘の歴史や、北海道で二番目に鉄道が通ったという安田鉄道の歴史など、経済産業省の近代化遺産にも選定されているように興味深い歴史がある。エコミュージアムセンターを運営していて、やはり観光というのは、入り口として土地の歴史から入っていった方が間口は広いと感じる。いきなり自然から入ると、狭くなってしまう傾向がある。やはり硫黄山の役割としては、インフォメーションセンターをつくるかどうかは別として、硫黄採掘の歴史を意識した仕組みや案内が必要である。

屈斜路湖について、先程、カヌーガイドの方がおっしゃっていたように、ガイドの方はそれぞれでツアーを実施している。聞くところによるとカヌーの発着場は民有地のようで、そこからスタートしているということだが、釧路川は、四国の四万十川と比べられる位、カヌーの聖地として日本で一位、二位を争う川なので、あそこにもインフォメーションセンターではないにしろ、何かしらのゲートウェイを設けるべきではないか。川とはこういうものです、阿寒摩周国立公園の釧路川はこういうものですという紹介できると良い。現状では、入り口もゲートもなく、いきなり入っていくというのは非常に使われ方として寂しいという認識を持っている。

また屈斜路湖に関して、屈斜路湖適正利用連絡協議会が利用について試行錯誤しているが、現状の課題を踏まえると、条例までもっていくのがよいか判らないが、屈斜路湖の適正な利用と保全について、動力船、無動力船の利用のあり方を検討する必要がある。

「海外の方が訪れて、なんだこれは」とならないように、この機会に検討していただ

ればと思う。

エコミュージアムセンターについて、この資料では欧米の方2%ほどとなっているが、去年から比較すると欧米の方は非常に増えている。去年まで外国人のうち欧米系は、確かに数%だったものが、20%位まで増えているような印象をうけている。なんで、こんなに来るのという位に欧米の方が増えている。エコミュージアムセンターのスタッフも1人オーストラリアの大学を出た者がいて外国のセンスも持っており、また外国語で案内できる者も2人いるので、川湯エコミュージアムセンターの出来る範囲で対応している。素案にカフェの必要性が書かれているが、そのへんは環境省で検討してもらい、あとは地域で経営している飲食店もあるので、そのへんの兼ね合いも含めてもらえればと思う。確かに利用者は休みたい様子がうかがえるので、センター側としてもゆっくり休んでいただきたい思いがある。

以上、何点が申し上げたが、文字の列記も大切であるが、いろいろ青写真を具体的に描いて、どこまで、いつ、何をやるというものを早く決めないと、具体的なビジョンが見えてこない部分がある。なるべく早めに青写真を描いていただければと思う。

【環境省】

摩周湖での取組は、今回の名称変更で「摩周」が加わることもあり、目玉のひとつになってくる。第1展望台、第3展望台、裏摩周展望台のそれぞれの役割や利用のあり方というようなものを考えていく必要がある。関係者間で議論を始めたい。

硫黄山の歴史については、レストハウスや屋外の解説板など、いろいろな対応の仕方があると思う。

カヌー乗り場についてもおっしゃるとおりで、カヌーの聖地でありながら、きちんとした施設がないということなので、そこも検討していく必要があると思う。

それ以外のことについても、可能かどうかということを含めて検討していきたい。

【林野庁北海道森林管理局根釧西部森林管理署】

阿寒国立公園の中で、6万9千ヘクタールほどが国有林で根釧西部森林管理署をはじめ4つの管理署で管理している。根釧西部森林管理署が一番大きい。

満喫プロジェクトに関しては、国の大きな中で動いており、林野庁も各省庁と同様に協力してやっていくというスタンス。それを踏まえ、根釧西部森林管理署は皆様と連携する中で、協力できるものは協力していきたい。

先程、摩周の観光協会、清里の観光協会から、国有林の中でと発言いただいたことに関して、出来ることと出来ないことを相談しながら、協力していきたいと思っている。

一点だけお願いしたいのは、森林を切って新たな施設をつくるについては、法律の関係で、時間がかかることもあるので、出来るだけ早めに相談していただきたい。

【国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局】

資料3で私ども所管の観光庁の支援メニューも出ている。ただ、これも満喫プロジェクト用に用意した補助ではなくて、既存のメニューなので、手を上げるタイミングとか、地

域の裏負担、1/3を地域で用意いただくとか諸条件あるので、早めにご相談いただきたい。

各市町もどの位、自分で予算を用意すればよいかというのも悩まれるところもあると思うので、早め早めに青写真をつくっていただいた方が良いと感じる。

【国土交通省北海道開発局】

北海道開発局の上部組織である国土交通省で、3月に第8期の北海道総合開発計画をつくっており、本年度から10年かけての計画となっている。

この中の二本柱で、食と観光というものが挙げられている。そういった観点で私ども開発局の方でも観光を推し進める取組について、協力をさせていただいているので、この満喫プロジェクトにつきまして、私どもも支援をさせていただきたい。ただ、予算の関係もあるので、そのあたり個別にご相談させていただければ。

阿寒国立公園だけというものではないが、様々な外国人受入に関する取組をやっており、こちらの地域だと、例えば、先月摩周湖入口交差点に交差点名標識を整備し、また通行止め情報など、今まで日本語だけで発信していたものを9月末から英語でも24時間リアルタイムでご覧いただけるサイトをつくったので、ドライブ観光する外国人の方にもどここが通れる、通れないというのが国道、道道を通じて判るようになった。今後、こういったものもご利用いただければと思う。

また、私どもの課で外国人のドライブ観光を推進するというのと、地域的な平準化や時期的な平準化を目指して、ドライブ観光パス社会実験というのをやっている。このエリアも含まれており、摩周川湯エリアの10弱の施設の方々に、特典10%OFFとか、プレゼントを差し上げますといったものでご協力いただき、11月末まで取組をしている。この取組は、来年度も行う予定なので、また準備を進められる時期になれば、ご協力いただける施設の公募もしたいと考えているので、ご協力いただければと思う。

【国土交通省北海道開発局釧路開発建設部】

開発局という訳ではないが、シーニックバイウェイ北海道という活動をやっており、特に阿寒摩周地区では15の団体が活動している。今日お集まりの観光協会等も含め、そのような民間団体もあり連携強化も必要なので、考慮していただければと思う。

【国土交通省北海道開発局・網走開発建設部】

5年間の計画実施期間の終了後、先程の意見の中でも心配している部分もあるかと思うが、釧路、十勝エリアと連携したような広域観光DMOなども念頭に入れて、将来の準備も必要と思っている。

【摩周湖観光協会】

前回の協議会でも話したが、やはり、ここに集まっている11のエリアはしっかりお互いを紹介しあえる状況が大事。そういった状態になっていなければ、プロジェクトそのものがうまくいったと言えないと思う。何かそういったツールというか、仕組みのようなものを、この計画の中に織り込んでいただくことも、検討していただきたい。何らかの仕組

みでお互いを紹介しあえるように、弟子屈・摩周エリアが阿寒エリアを紹介したり、阿寒エリアが清里を紹介したり、11の中できちっと紹介できる仕組みづくりが非常に重要ではないかと思う。

【環境省】

阿寒国立公園広域観光協議会でも、11市町が集まって観光協会も入って、いろいろパンフレットやお互いを紹介する仕組みは出来ていると思う。満喫プロジェクトの中で、そのような取組とどのような連携ができるかを相談させていただきたい。

■閉会

○環境省釧路自然環境事務所 安田統括自然保護企画官 挨拶